

平成6年度研究功労賞推薦書

受賞対象者 佐野 圭司 先生

佐野圭司先生は、昭和20年9月東京帝国大学医学部医学科を卒業後、同年10月同大学医学部副手として、大槻菊男教授に師事され外科学を研鑽、昭和22年10月東京大学大学院前期特別研究生となり、脳神経外科学を専攻されました。当時の指導教官清水健太郎助教授と共に、高安病として知られていた眼症状の全身性変化を明らかにした「脈なし病」の研究で名を挙げられました。この頃より、脳波研究、てんかんの手術的治療の研究に力を注ぐようになられ、その活動は現在に至り45年に及ぶものであります。一方、その頃開発された経皮的椎骨動脈撮影法は、先生の学位論文となっています。昭和26年7月より、カリフォルニア大学において脳神経外科学と神経病理学の研究に従事され、側頭葉てんかんにおける海馬の病理学的変化の臨床的意義に関する論文を *Archives of Neurology and Psychiatry* に発表され、その後の側頭葉てんかんの発生機序の研究に大きなインパクトを与えられたことは広く知られております。昭和27年8月帰朝、同年10月東京大学医学部助手、昭和31年10月同講師、昭和32年1月同助教授としてわが国の揺籃期の脳神経外科の教育・研究・診療の進歩の中心的役割を担われ、脳腫瘍・神経外傷・水頭症などの研究の他、側頭葉てんかんの治療や、機能的神経外科の治療を開発し、多数の論文・著書等を発表されました。昭和37年12月東京大学教授に任ぜられ、わが国初の脳神経外科学講座を担当し、以後、周知のとおりわが国の脳神経外科の発展に努められました。

先生は、日本脳神経外科学会の設立当時から本邦の斯学の学術水準の向上に尽くされ、東京大学時代は他学会の理事長にあたる庶務会計幹事として、また帝京大学に移ってからは学会機関誌の編集長として同学会の発展に貢献され、昭和40年には、同学会の会長を勤めておられます。また、日本脳神経外科学会認定医(専門医)制度を確立され、その初代の委員長として卒後教育、医師の治療技術の向上に大きな役割を果たされました。昭和56年4月1日東京大学を定年退官、同大学の名誉教授となられた後は、請われて同年4月より帝京大学医学部教授兼救急救命脳神経外科センター所長、脳神経外科主任教授に就任、昭和60年11月1日同大学医学系大学院研究科長を兼任され一層の斯学への貢献をされました。昭和63年10月31日同大学を退職し、同年11月1日からは同大学医学部客員教授に就任され、この間の功績を評価され、昭和63年11月3日紫綬褒章を受賞されて、現在に至っています。

先生の研究業績は、おびただしい数の著書・論文にみられるように、脳神経外科の各分野すなわち神経生理学・てんかん・脳腫瘍・脳血管障害・脳外傷・先天奇形など極めて広汎な領域に亘っています。とくに神経生理学的研究においては、各種の定位脳手術のほか、てんかん、不随意運動に対する治療法の開発、脳定常電位の発見とその記録法の完成等が

顕著であります。一方、先生は研究者としてのみならず東京大学医学部並びに帝京大学医学部において、自らも脳神経外科の診療に従事すると共に、教室員・研究生・大学院学生・学部学生の良き指導者・教育者として、脳神経外科学の各分野とくにてんかんの外科治療を行う数多くの有能な人材を育成し世に送られました。

このほか国内では、日本脳神経外科コンgres会長ほか、多くの学会・研究会において指導的役割を果たされ、ことに、草創期の日本脳波学会、日本てんかん学会の母体組織の設立に当たり、大きな貢献をされています。また、わが国のてんかんの外科手術を研究する **Wilder Penfield** 記念懇話会の実質的設立者でもあります。さらに、先生は第 13 期、第 14 期日本学術会議会員ならびに同会議の脳研究連絡委員長としてわが国脳研究の発展に多大の寄与をなされました。国際的にも、昭和 44 年から 48 年までの 4 年間全世界脳神経外科学会連合会長に任ぜられ、以来同会の終身名誉会長として今日に至っています。昭和 48 年には、第 5 回国際脳神経外科学会々長、昭和 46 年にはアジア・オーストラリア州脳神経外科学会々長、その後は同会の終身名誉会長、昭和 61 年には欧亜脳神経外科アカデミー会長、米国の脳神経外科関係の 6 学会、西独の脳神経外科学会の名誉会員、米国神経学会、スカンジナビア脳神経外科学会の客員会員等に推されています。ことに、米国の脳神経外科コンgresは昭和 57 年には、名誉主賓に先生を選び、先生のために機関誌に特集号を作ったほどであります。かように先生は、全世界的に見ても最も著名な脳神経外科医の一人であり、わが国脳神経外科の地位向上に果たされた功績は計り知れないものがあります。

以上のように、先生の長年に亘るわが国の脳神経外科学の指導者として内外に残した業績は非凡にして極めて大なるものがあり、なканずく、わが国の脳神経外科学とくにてんかんの外科治療の水準を国際的に第一流の地位に向上させた功績は特筆に値するものであります。

鹿児島大学医学部教授

朝倉哲彦